

透析クリニックにおけるエイト使用の効果が確認できた4症例に関する報告



ひろせクリニック透析センター
臨床工学技士 菊池 匠人 様



【はじめに】

透析患者と疼痛の関連は深いですが、透析施設単体では解決できない事も多い。透析患者が抱えるそれぞれの疼痛に対しエイトを使用し、効果を確認した。

【症例Ⅰ：脊柱管狭窄症】

- ・ 50歳代男性
- ・ 2012年10月より慢性糸球体腎炎のため透析導入
- ・ 7～8年前から腰痛症状あり
- ・ 整形外科にて脊柱管狭窄症の指摘も、手術等の治療は現在行っていない
- ・ 透析中の長時間の仰臥位や起きたり立ったり等の動作をする時に疼痛を生じる

【パッドの固定方法】

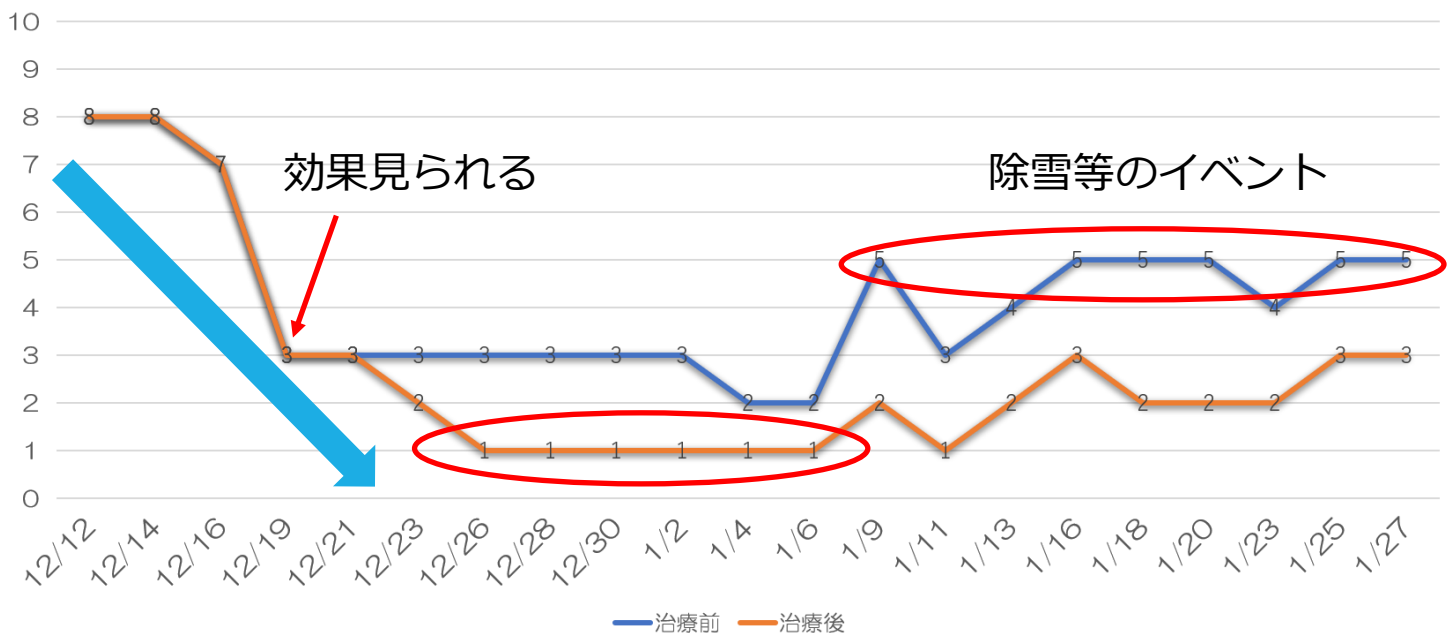
腰痛を感じる箇所に、パッド4つをテープで固定して使用した。



【治療結果】 ◆治療期間：7週間程

- ・NRS及び患者からの聞き取り結果より：治療後は、治療前より痛みが減少した。治療期間中に、静止時に痛みを感じない場合であっても、体を動かした際に痛みが増加することがあった。治療期間中に、除雪作業を行い、その後の痛みが増加した。
- ・エイトを使用して4日目に効果が見られ、NRSは8から最終的に3まで減少。12/26～1/6の期間はNRS1を維持することができた。1/9以降は除雪等のイベントが発生したためNRS3まで増加しているものの、当初に比べて著明な減少が確認できた。

脊柱管狭窄症への効果(NRS)



【腰痛症例Ⅱ：腰椎椎間板ヘルニア】

- ・60歳代男性
- ・2023年3月よりIgA腎症のため透析導入
- ・透析歴1年
- ・数十年前から腰痛と、腰痛からくる下肢のしびれ症状あり
- ・整形外科にて腰椎椎間板ヘルニアの指摘があるも、手術等の治療は現在行っていない

【パッドの固定方法】

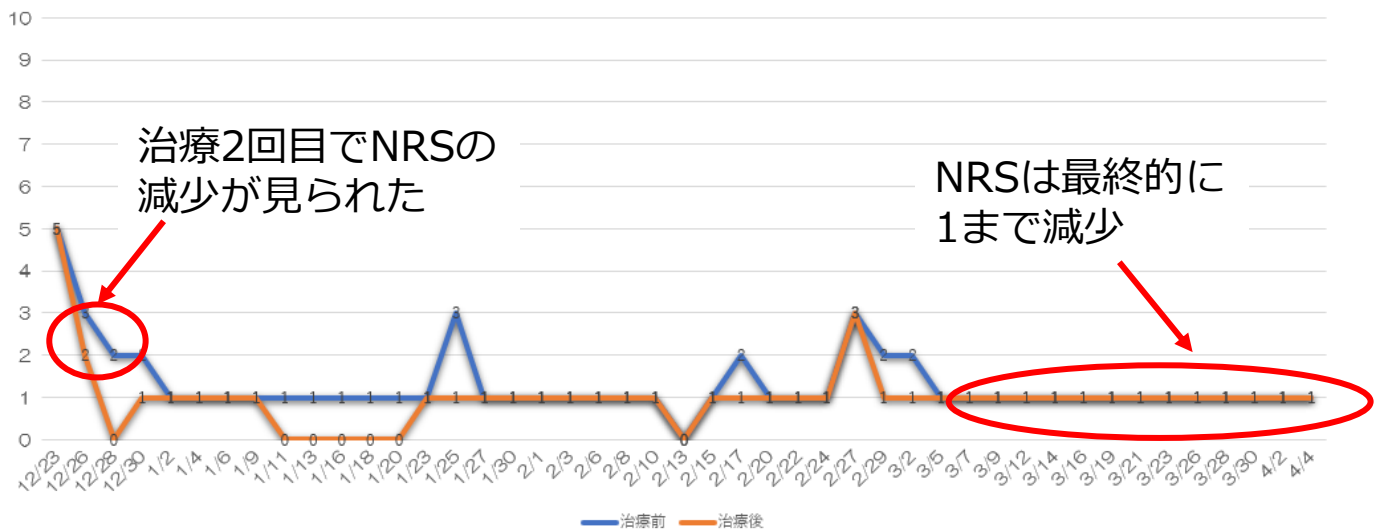
腰痛を感じる箇所に、専用の粘着シートを使用しパッドを4つ貼付



【治療結果】 ◆治療期間：15週間程

- ・NRS及び患者からの聞き取り結果より：治療後は、治療前より痛みが減少した。特に日常生活において、長時間の作業が苦にならなくなったことや、就寝時の体勢も工夫しなくても良くなった等効果が見られた。
- ・エイトを使用して2回目で効果が見られ、NRSは5から最終的に1まで減少。

腰椎椎間板ヘルニア



【他の腰痛持ち患者への効果】

- 50歳代男性 数年前に脊柱管狭窄症の診断あり
NRS 8 → 5(治療後は3) (エイト治療20週間程)
- 70歳代女性 慢性的な腰痛、特に歩行時に強い疼痛
NRS 7 → 2 (エイト治療16週間程)
- 70歳代男性 20代から腰痛、時折NRS 7程度の激しい腰痛
NRS 3~2 → 1 (エイト治療16週間程)

【腰痛治療時の工夫】



①専用粘着シートを
活用する



②専用粘着シートは
半分に切って使用



③腰部分を布団や
クッションで支える

【症例Ⅲ：手根管症候群】

- ・ 70歳代、女性
- ・ 2007年7月より糖尿病性腎症のため透析導入
- ・ 透析歴16年9か月
- ・ 長期透析にてアミロイドーシスによる手根管症候群を罹患
- ・ シャント肢の中指、環指に疼痛（+）特に指の屈曲、進展時に強い疼痛がある
- ・ 現在他院整形外科フォロー中も経過不良

【パッドの固定方法】



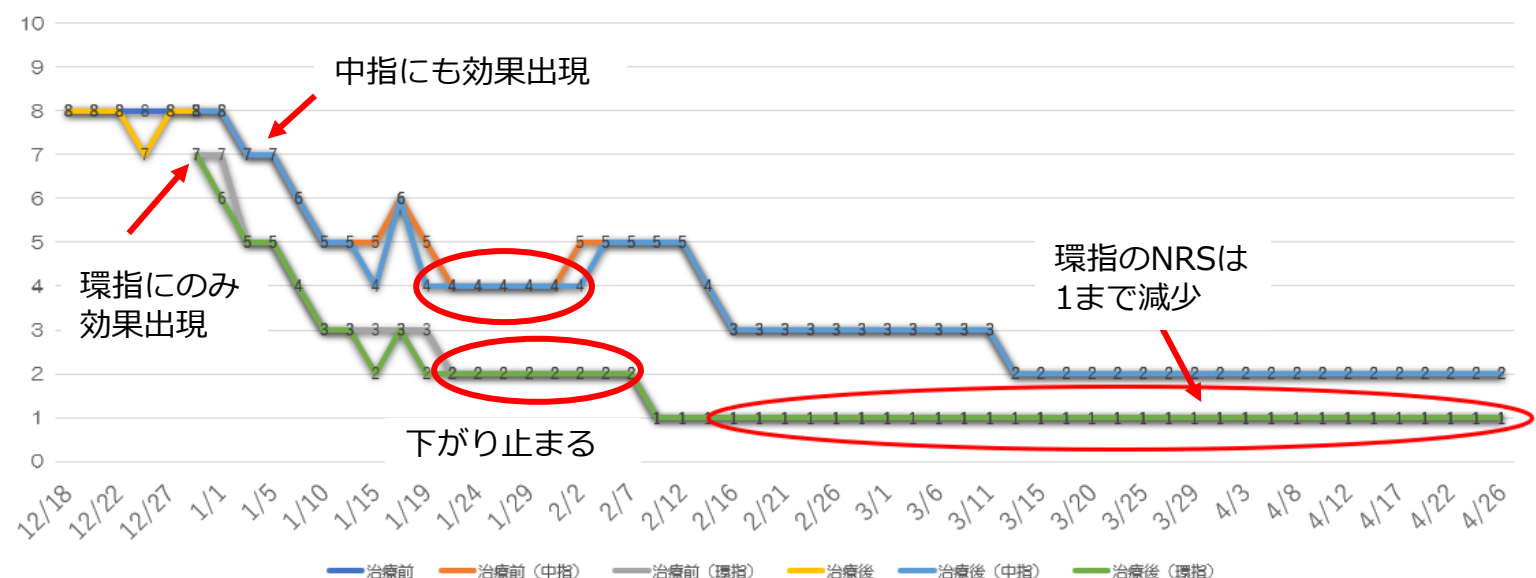
- ①手の平の中指、環指
- ②手のひら
- ③手首
- ④わきの下（神経叢）
- ⑤手の甲の中指、環指（疼痛強い場合）

状況に合わせてパッドをバンドで固定

【治療結果】 ◆治療期間：19週間程（12/27までは環指と中指の総合的なNRSを測定、12/29に環指に効果が見られ始めたことから、以降は環指と中指のNRSをそれぞれ測定した。）

- ・ NRS及び患者からの聞き取り結果より：治療開始直後では患者から変わらないとの事であったが治療が進むにつれ効果が出現し、中指環指とも屈曲時の疼痛の軽減がみられた。
- ・ 特に環指に効果が見られ、NRSは7から最終的に1まで減少。中指はエイト使用から8回目に効果が見られ、最終的にNRSは8から2まで減少した。

手根管症候群への効果(NRS)



【症例Ⅳ：シャント肢慢性疼痛】

- ・ 50歳代男性
- ・ 2012年10月より慢性糸球体腎炎のため透析導入
- ・ 透析歴11年7か月
- ・ 6年前にシャント穿刺で失敗され上腕～指先かけて継続的な疼痛、しびれがある
- ・ 常に正座をしている状態に近い

【パッドの固定方法】

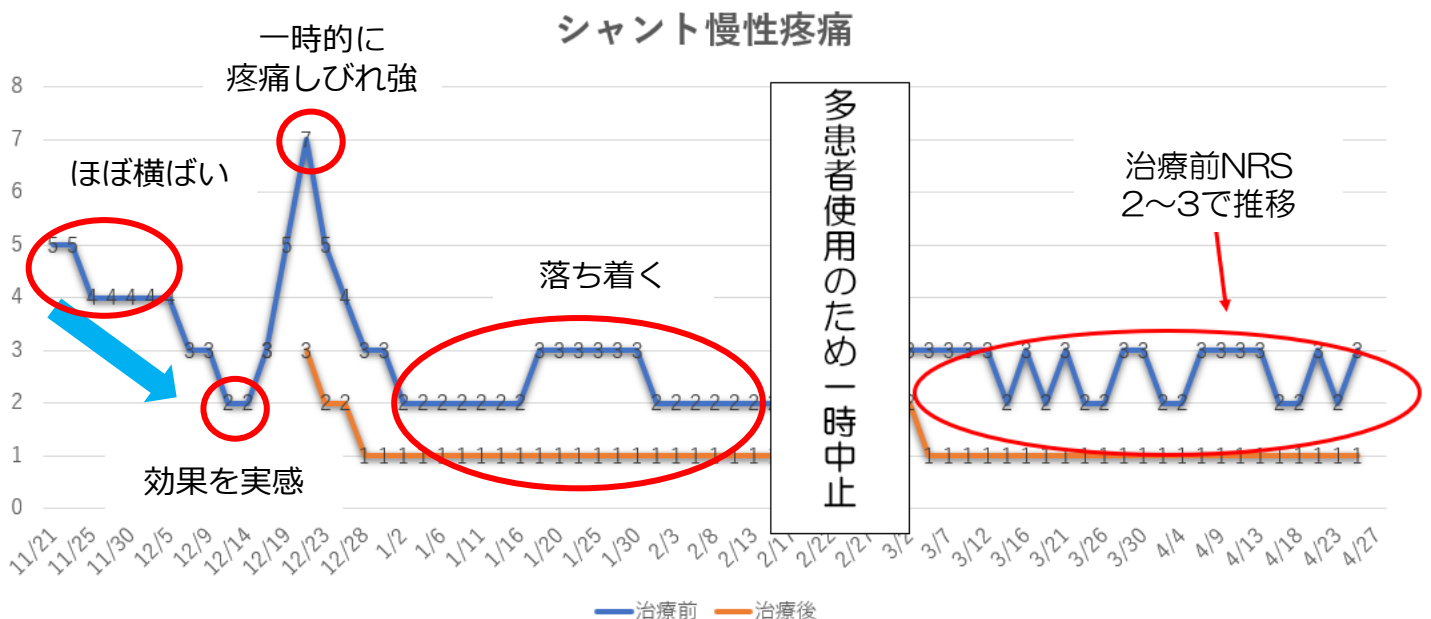


- ①わきの下
- ②上腕
- ③前腕
- ④小指側の拳
- ⑤親指の付け根

5か所をその日の病状に合わせ固定

【治療結果】 ◆治療期間：23週間程

- ・ NRS及び患者からの聞き取り結果より：治療後は疼痛・しびれの軽減が見られた。多少指先にしびれが残るがほとんど気にならないくらいまでになった。
- ・ エイト使用から10回目に効果が見られ、NRSは5から最終的に1まで減少。使用を一時中止するも、3/7～4/27まではNRS1を維持することができた。



【考察】

以下にそれぞれの疾患に対する考察を示す。

①腰痛に対して

腰痛は疾患の有無に関わらず効果を確認することができた。透析患者特有の長時間の安静による腰痛にも十分恩恵が得られると考えられる。

②手根管症候群に対して

罹患期間の長い手根管症候群の疼痛にも効果が得られた。しかし、効果が得られるまで時間を要するため、辛抱強いエイトの継続が必要だと考える。

③シャント肢の慢性疼痛について

シャント肢の慢性疼痛やしびれの原因は様々であるが、今回のケースでは効果が得られた。

【まとめ】

これまで諦めていた透析患者への疼痛に対しエイトによる疼痛緩和効果が確認された。今後も、今回提示した症例以外にも透析患者特有の疼痛に対し効果が得られるか引き続き調査していく。

本製品の薬事承認された使用目的は、「2種類の交番磁界を経皮的に照射し、神経を刺激することで疼痛を緩和させる」ことです。本症例報告は疼痛緩和を目的にエイトを使用した際の臨床使用経験を示しておりますが、実際にエイトに使用される際は上記使用目的およびエイトの添付文書等に記載の使用方法等をご確認頂いたうえで、それぞれの患者様への使用適否をご判断いただきますようお願い申し上げます。

薬事情報

販売名：エイト

承認番号：30400BZX00015000

一般的名称：交番磁界治療器

医療機器クラス分類：クラスII

(管理医療機器 特定保守管理医療機器)

株式会社P・マインド

〒861-5525

熊本県熊本市北区徳王2-8-6

TEL 096-223-6826

MAIL contact@p-mind.co.jp